



＜来週の資金需給予想とイベント予定＞

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/8 (月)	+ 100	+ 3,800	+ 3,900	国庫短期証券 発行・償還 (3M)	CP買入 ▲ 100 国債補完供給 + 9,800	国債買入 + 11,100	日：国際収支：経常収支 (6月) 日：貿易収支 (国際収支ベース) (6月)
8/9 (火)	+ 1,000	+ 3,000	+ 4,000				米：中間選挙予備選
8/10 (水)	▲ 2,000	▲ 20,000	▲ 22,000	国庫短期証券 発行・償還 (6M) 国債発行 (30年)			日：国内企業物価指数 (7月) 米：CPI (7月) 米：シカゴ連銀総裁講演 米：ミネアポリス連銀総裁講演
8/11 (木)				祝日 (山の日)			米：新規失業保険申請件数 (6日終了週) 米：PPI (7月)
8/12 (金)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000				米：輸入物価指数 (7月) 米：ミンガン大学消費者マインド指数 (8月) 欧：ユーロ圏鉱工業生産 (6月)

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初540兆2,100億円から始まった。今週は1日・4日の国債買入オペや3日の国庫短期証券買入オペ等増加要因が見られたが、3日の税・保険揚げによる減少が大きく、週末5日の同残高は週初から減少し532兆1,200億円(予想)となった。

無担保コール市場は週を通してオファー・ビッドともに動向に変化は見られず、ON物加重平均金利は△0.010%～△0.009%の狭いレンジで推移した。ターム物では1W～2W物を中心に、主に△0.020%～△0.010%の水準で出合いが見られた。

来週の主な予定は、国内では企業物価指数の公表 (10日) などがあり、海外では7月の米消費者物価指数 (CPI) の公表 (10日) や7月の米生産者物価指数 (PPI) の公表 (11日) などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.040 ~ 0.001
1M	△0.040 ~ 0.020
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

＜レポ＞

足許GC取引は週初△0.120%～△0.110%で始まり、過後半にかけて△0.10%近辺まで上昇した。短期3Mの発行なった8日受渡しは△0.09%近辺から出合い始め、△0.08%台まで上昇して越週した。SC取引は2年430～439回債、5年148～153回債、10年350～367回債、20年171～181回債、30年65～75回債、40年9～15回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.005

＜C P＞

今週の入札発行総額は約5,800億円で、週間償還額 (約1,700億円) を上回った。発行市場は、案件数は限定的であったが石油や電気機器等で大型の発行が実施された。発行残高は先週末の28兆1,705億円から8月4日時点で28兆3,645億円に増加した。7月末に月末ベースの過去最高を更新して以降も残高は28兆円台の高水準を維持している。足許では円安や原油高は一旦落ち着きを見せているが、ボラティルな動きを見せていることから不透明感が強く、資金ニーズは後退しにくい状況が続くものと思われる。発行レートはゼロ%から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。

来週の週間償還額は、約4,500億円となっている。発行市場は、夏季休暇を迎え落ち着いた展開を予想する。9日に、C P等買入れオペが4,000億円程度オファーされる予定。

＜TDB＞

8月5日の3M1099回債の入札は、最高落札利回り△0.1202% (前回債△0.1323%)、平均落札利回り△0.1299% (前回債△0.1419%) と前回債よりもやや緩む結果となった。来週は9日に6M、12日に3Mの入札がある。